知ってますか？

信夫山が『放射能のゴミの山』に

福島市長が変わったことはご存知でも、福島市のシンボルである信夫山の変化に気づいている人はどのくらいいるでしょうか。３年ほど前から本格的に山肌を削りとる「仮置き場」建設が始まり、大きなものだけでも４ヵ所、そのほかにもいたるところにフレコンバッグが積み上げられ、いまや「放射能のごみの山」です。これからもまだまだ増え続けます。

第２展望台公園の子どもたちの遊具の10メートル先にトラックが乗り入れ、フレコンバッグを降ろしていきます。業務用のマスクをしている作業員と無防備な子どもたちのコントラスト。これが、いまの福島の姿です。

モニタリングポストの空間線量しか問題にしない行政のせいで、そもそもホットスポットだらけの信夫山の土埃（つちぼこり）が肺などから入り込む内部被曝は問題にすらされていません。「復興の加速」を掲げる新市長にとっても、子どもの健康被害は、すでに無いものになっているようです。

しっぺ返しは必ずきます。子どもたちの未来も私たちの健康も、自分たちで守るしかありません。

２年前の夏、樹木が根こそぎ削り取られた山肌。大雨や地震による土砂崩れの危険性も高い。

いまも連日積み上げられるフレコンバッグの山。放射能の墓場では「草木成仏」もあったもんじゃない。

遊具のすぐ裏のペラペラの目隠しの向こうでは、重機が仮置き場を作るはしからフレコンバッグが運ばれている。

「被曝と帰還の強制反対署名」第5次集約分の１万筆を追加提出しました

11月14日、福島県庁において第5次集約分1万筆を提出しました。署名提出の後、事前に県の避難復興局に提出していた「14の質問事項」をベースに、各関係課の担当者に質問と申し入れを行いました。

これからも「被曝と帰還の強制反対署名」へのご協力をお願いいたします。署名用紙および「14の質問事項」は、当院のホームページからダウンロードできます。電話でもお問い合わせください。

https://www.fukushimacollaborativeclinic.jp

予防接種のご案内

●肺炎球菌 ワクチン

接種ご希望の方は事前にご予約お願いします。

●インフルエンザ ワクチン

今年はワクチン流通量が全国規模で不足しているため、接種をご希望くださった皆さんには大変にご迷惑をおかけすることとなりましたことをお詫び申し上げます。外出先から戻ったら手洗いとうがいを励行し、人混みの所では咳エチケット（マスク着用）で予防を心がけましょう。

- 一般（小学生から）2,500円　（2回目は2,000円）
- ６５歳以上　1,400円

※事前予約と問診票の事前記入にご協力ください。

※微熱がある方、風邪気味の症状の方は、接種は実施延期となりますが、ワクチンは確保されたままとなりますのでご安心ください。

編集後記

地域のみなさんに支えられ、12月1日で開院5周年を迎えることができました。ありがとうございます。3面でも取り上げましたが、地元紙が「平均余命推計、被曝による影響は糖尿病を下回る」といったキャンペーンに力を入れています。しかし、ストロンチウム90が糖尿病を発症させるという研究結果もあります。そうしたものは報道せずに一方的に「安心・安全」を押し付ける行政のウソに負けず、被曝の不安と向き合う診療所としてこれからもみなさんとともに歩んでいきます（え）

発行：2017年12月1日

ふくしま共同診療所 Newsletter

ここから通信 －KOKOTU－

第19号 季刊-秋・冬号-

診療時間：9：30-12：30/14：30-18:00

	土	日	月	火	水	木	金
午前	●	●	●	●	－	●	●
午後	●	●	－	●	－	●	●

診療科目：内科/放射線科/循環器科/ﾘｳﾏﾁ科

〒960-8068
福島市太田町20-7 佐周ビル１階
TEL:024-573-9335 FAX:024-573-9380

甲状腺エコー検査の縮小をさせないために声をあげましょう

県の発表だけでも小児甲状腺がんないし疑いが194人になりました（2面に詳報）。チェルノブイリ原発事故後と同じように、子どもの甲状腺がんが増えています。しかし、県は「放射能の影響とは考えられない」と甲状腺エコー検査を縮小しようとしています。私たちは、県による甲状腺検査の維持と大人への拡充を求めて、昨年から「被曝と帰還の強制反対署名」をよびかけています。全国から4万3千筆を超える署名がよせられていて、これまで5回、県に対する申し入れを行なっています。

増える大人の甲状腺がん

9月23日いわき市でのエコー検査

県の対応を待ってはいられませんので、私たちは甲状腺エコー検査の拡充の取り組みを始めています。1月28日に南相馬市で、講演会と甲状腺エコー検査を行いました。午前中だけの検査のため10人だけでしたが、「最近首にピンポン玉大の甲状腺腫瘍が出来た」という方もいて驚きました。4月4日の参議院復興特別委員会で、10例以上甲状腺がんの手術を行っている県内9病院の甲状腺がんの総手術数（2011 年～2015 年）は1,082人と、厚労省の審議官が答弁しています。当院で甲状腺がんの疑いとなった大人の方もいます。定期的な大人の甲状腺エコー検査も必要だと実感し、県内各地で甲状腺エコー検査を行うことにしました。1日に行うことができる人数は18人が限度なので電話予約制です。南相馬市で2回、福島市で1回、いわき市で2回行いました。受診年齢は6歳から86歳と広範囲でしたが、大人の方がほとんどでした。

いいかげんな検査体制

県内各地でエコー検査をして分かったことがあります。原発事故当時6歳の男の子と乳飲み子と共に福島市に避難された家族は、3年前に南相馬市に戻られましたが、避難先では甲状腺検査の連絡がなく、2016年に初めて検査を受けたそうです。また震災当時妊娠9か月だったいわき市のお母さんは、原発事故3日後に県外に避難し、避難した自治体に住民票を移して5月に出産しました。お子さんが就学年齢を迎えるため、今年いわき市に戻りました。県は、原発事故時、胎内にいた子どもも検査対象とするために、本格検査から「2011年4月2日から2012年4月1日までに生まれた福島県民」も検査対象としましたが、このいわきの6歳の子は「福島県民」に該当しないため、今年いわき市で行われた本格検査２巡目の検査の連絡はなかったそうです。お母さんは「子どもは検査の間、他の園児と違う部屋で待機させられたままでした。胸が締め付けられる思いでした。」と話してくれました。避難家族の中にはこのようなケースが少なくないのかもしれません。帰還させることだけが目的で、住民はどうでもいいという県の姿勢があらわれています。少なくとも原発事故当時、福島県在住ならば、甲状腺検査を受けられるようにすべきです。当院は、県に対する要望を強めるとともに、今後も県内各地で甲状腺エコー検査を行っていきます。

ふくしま共同診療所 院長　布施幸彦

大人も子どもも甲状腺エコー検査を受けましょう

検査日	土	日	月	木	金
午前 9:30-12:30	○ ♥	○	○	○	○
午後 2:30-18:00	○ ♥	○	－	－	○

○→甲状腺エコー
♥→乳腺エコー
乳腺エコー検査は女性が担当します。

お問い合わせ・ご予約はお電話でどうぞ→ 024-573-9335

地域のみなさまに支えられて、当院は、12月１日をもちまして開院から５周年を迎えることができました。ありがとうございます。

これからもどうぞよろしくお願いいたします。